

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 11月 18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103726		
法人名	有限会社あけぼの会		
事業所名	グループホームあけぼの		
所在地	広島県広島市南区皆実町1丁目13-2 (電話) 082-250-6923		
自己評価作成日	令和4年10月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103726-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年11月2日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ禍での外出行事や外部との接点が困難な状況の中で、毎日の散歩やレクリエーションで少しでもご利用者の精神的なストレスを軽減し、職員と一緒に取り組めるゲームやレクリエーションを行っている。日々の生活面でも出来ることは存分に活躍して頂けるよう配慮ある声掛けを行っている。医療では、協力医の往診、訪問看護、薬局との医療連携を契約しているため、体調不良の際は迅速に相談、往診して頂ける環境にあり、ターミナルケアの際もご利用者、家族、職員と不安のないよう連携を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者の個人の尊厳を意識し、個々の特性を理解した支援に努めている。利用者同士の繋がりや関係性を作ることを重点に介護計画を立案し実施することで、利用者の生活にも他者との繋がりがあり、理念である家庭的な雰囲気が感じられアットホームな生活を体現化している。コロナ禍で外出行事が難しい中でも、毎日の散歩を季節問わず、過ごしやすい気候の時間帯に調整し、近隣への花見や弁当を持参しピクニックを行うなど、できることを検討し実践に繋げている。往診など主治医、訪問看護との連携も整えており、適宜安心できる医療が受けられる体制がある。それにより看取りにも積極的に取り組むことができ、利用者や家族の意向を反映した最期までの支援を可能としている。今年度5月からケア記録をタブレット入力とし、ICT化にて業務の効率化を図っている。

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の理念を掲示し、申し送り前に毎日唱和している。日々職員同士で情報を共有し、理念に沿った支援を実践している。	開設からの理念を各ユニットに掲示し、朝礼時唱和し意識を持ち理念に沿ったケアに努めている。ユニットの状況、利用者個々を見つめ、レクリエーションや支援について場面場面を大事にその瞬間を楽しめるように配慮し、取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域で行事がある際は、出来るだけ参加するように心がけている。先日は、通りの花の植え替えをご利用者と一緒に参加した。	事業所は代表が地元で育ち生活してきた場所であり、近隣との関係性の経緯や開設からの地域や近所との付き合いにて事業所の認知も深くある。町内会に入り回覧板や交流で地域情報を得ながら、神輿など行事への参加や、先日は通りの花の植え替えを利用者と近所住民一緒に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターと事業所の空き部屋を利用して『いきいき体操』を1/w開催していたが、新型コロナウイルス蔓延のため中止している。沈静化後、再開予定。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、新型コロナウイルスのため会議は開いておらず、文書による議案・報告を行っている。近隣との交流は続いているため、その際にホームでの活動等について意見交換している。	現在、コロナ禍により文書での報告にて実施している。以前は地域包括支援センターをはじめ、近所の世話人や住民、家族の参加にて行っており、活動や事故報告など伝える機会とし、様々な意見交換を行っていた。事業所で地域包括支援センターとの話からいきいき体操も実施している。	コロナ禍にて対面での開催は難しい状況下であるが、参加者への意見確認を行い、活動や情報の共有がしっかりと行える形式への考慮と、多角的な視点が持てるよう知見を有する方の参加など構築できるネットワーク作りを行い、様々な意見を反映した運営の取り組みとなるよう期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地区担当である翠町地域包括支援センターや南区健康長寿課介護保険係、南区生活課、広島市介護保険課とは連絡を密にとり協力関係を築いている。	地域包括支援センターとはコロナ禍の情勢や事業所の様子など共有しており、利用者の利用調整を行うなど、協力体制を築いている。生活保護利用者への支援も普段から市生活課と連携を密に行い、介護保険や実務において介護保険課に適宜確認するなど、関係機関との連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内勉強会にて細部にわたり「身体拘束」について周知し「身体拘束ゼロを目指して」職員全員が真摯に取り組むことが出来ている。	定期的な身体拘束防止委員会の開催や日々のケアで気になる事例は日常で話し合う他、管理者に気づきや言い難いことなど何でも話ができることを周知し、改善や取り組みに反映させている。施設内勉強会や委員会において指針を見直すなど、身体拘束ゼロに向けた研鑽を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内勉強会にて学ぶ機会を持ち、施設生活の中で虐待が見過ごされることがないように職員間で声掛けし防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度を活用されているご利用者もいらっしゃる、後見人と職員が関わりを持つことで制度について興味関心を持っている。利用に関するパンフレットも事業所に置き閲覧可能にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前には起こりうる事案や事前のお願いことをご利用者やご家族にあらかじめ伝え、ご家族からの疑問点や不安を入所前にお聞きし、説明、お答えし理解、納得された上で契約を締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在、新型コロナウイルスまん延のため面会制限があり、外部との接触が少なくなっている。しかし、ご利用者の様子を書いた手紙や便りを送り、電話でのやりとり等でご家族の希望や要望を聞きとっている。	利用者の希望に、行事の時には食べたいものを確認し用意できるように整え楽しみに繋げている。家族へは来所時に個別に話を聞いたり、電話連絡にて希望など確認している。面会希望には都度状況を説明し理解を得ており、毎月のお便りなどで様子など伝えられるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の申し送りや月に1回のケア会議の際に運営に関する意見や提案を聞き、出席者全員で話し合い、反映させている。	毎朝の申し送りや毎月のケア会議など意思疎通を図る機会を適宜持ち、職員の意見を確認している。職員からはケアの方法など率先して意見が上がり、都度検討を行い活かせるようにしている。資格取得への費用の補助や勤務の調整など、個人の状況に合わせ柔軟な対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月1回の会議で意見交換し意思疎通を図ることでやりがいを持って働けるような職場環境作りに努めている。資格取得の際の研修費負担や労働日時の調整を行い、その後の給与水準の提示を行うことで向上心を持って働けるように支援している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に社内外の研修を受ける機会があり、職員一人ひとりの力量を把握し、チャレンジしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者及び医療関係者とも密に連携し、情報交換を行い協力しサービスの質の向上に向けて実施できている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	病院や他のケアマネからの事前情報をもとにご本人により安心してもらえるようなサービスを行えるよう職員同士で連携し、本人との関係づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前にご本人やご家族から事前に困っていること、不安なことを聞き、ご本人の話を傾聴しながらご家族には施設での様子をお伝えすることで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族からの要望を伺い、必要、希望とされている支援、サービスを見極め提案し対応に当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	認知症の患者ではなく、年長者として敬い暮らしを共にするものとして家事等では年長者のやり方を積極的に取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、ご家族に利用者の近況報告や電話連絡、不定期のお便りを送っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者の以前から親交のあった方や親せきの方が来られたり、連絡をされたりと良い関係が維持できるよう努めている。	利用開始時に生活歴をしっかりと確認し、個人の背景に理解を深め把握に努めている。コロナ禍であり、家族や友人の面会も難しい状況に、手紙でのやり取りなど連絡を取り次ぐ支援を行っている。昨年は家族の協力を得て、結婚式に参加した方もいる。	

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の性格や相性を把握してコミュニケーションを取れるよう席を近くにしたり、レクリエーションでは同じ作業を協力して行って頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の希望や意向の把握に努め、希望に沿えるよう職員間で話し合いを行い、沿うことが困難な場合も丁寧に説明させて近い形での対応を行えるよう努めている。	趣味や職業、得意なことを把握しながら、本人の日常にどのように結び付けていくかを検討し計画を組んでいる。担当職員が個々に深く関わりを持っており、利用者も心強く頼りにし希望や要望を伝えている。利用者のしぐさや行動から汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	会話の中で一人ずつの発言の機会を作り、昔話をしながら質問を行い、無理のない程度にお話頂き情報を集め、理解を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	お一人おひとりの一日の行動を記録し共有している。変化のあった時には職員間で対応、話し合いその方にあったサービスを提供している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご本人、ご家族の気持ち、意向を尊重し必要な関係者と話し合い、ご本人の現状にあった介護計画の作成、モニタリングに努めている。</p>	<p>日々の様子や思いなど日々タブレット端末に入力し把握する他、担当職員からの聞き取りにもとづき計画作成者が原案を作成しケア会議にて決定している。利用者同士が関わり合えることを重要視し相互作用の高い生活の介護計画を作成している。往診時医師に状態確認し、計画に反映している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人記録に日々の様子やケアの実践、結果気付いたことを記録している。職員間で共有し、見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>女性の利用者様が増えているため、外部よりネイルボランティアに来て頂き、普段はないことに大変喜ばれている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会に入り、地域の花植えのボランティアに参加したり、とんど等の季節行事にも顔を出させて頂いて楽しませている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医と関係を築き、月2回の往診、夜間時の急変にも対応して頂ける様に医療連携に取り組んでいる。他科への受診希望があれば、往診を依頼したり、紹介をして頂いている。</p>	<p>利用開始前の主治医も、休日や夜間対応、薬の調達を家族にお願いするなど取り決めに整え継続を可能としている。往診は月2回定期的に行い、皮膚科や歯科にも紹介状にて受診に繋げることや緊急的な状況には職員が迅速に受診を支援し、適宜必要な医療が受けられる体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	あげぼのでは訪問看護をお願いしており、夜間、緊急連絡等24時間看護を受けられるよう支援している。特変時は、電話連絡で情報伝達し、看護師からの指示や、協力医からの指示伝達を受けられるよう支援して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず職員が付き添い、現状時要約をお渡ししている。また入院中の相談や退院時のカンファレンスへの参加も積極的に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	コロナ禍においてターミナルケア（終末期）はとてもデリケートな課題だが、職員全員が一貫したケアが出来るようカンファレンスでは情報共有に力を入れている。	契約時に看取りの対応を説明し同意を得ている。利用者の状態が終末期になる時に医師を交え家族と三者で話し合い、意向をもとに進めている。その時その時での希望を汲み取り、医師の指示を確認しカンファレンスで共有し取り組んでいる。看取り後も職員で振り返りを行い次に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内ではそれぞれの初期対応のマニュアルがあり、共有し、シュミレーションを行い緊急時でも対応できるように訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に訓練を行い確認している。地域との協力体制を確認している。	年2回、日中と夜間想定それぞれに訓練を行っている。消防士より救急の訓練としてAEDや心肺蘇生、避難のポイントや指導を受けている。災害として水害が想定されている地域にて災害別のマニュアルも整備し、地域の近隣住民とも何かあった時の要請の確認をしている。	災害時における地域との関係性において、近隣住民との協力関係はあるが、地域全体としてみた時に係わりが薄い状況がある。町内会にも加入していることで、自治体などとの連携や訓練など協力体制の明確化を図るなど、地域との繋がりを形成し有事の備えが整うことを期待する。

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格尊重を基本とし、細部にわたりきめ細やかなケアが出来るよう職員の質についても話し合う機会を設けている。	研修にて個人の尊重への理解を深めている。施設内にグループホームに勤める上での資質に即した条項文を掲示し、職員はいつもそれを見て求められる資質を確認し自己覚知や研鑽、向上に繋げている。排泄支援も時間を要す時はプライバシー確保にて職員2名で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	毎身体操、発声練習で大きな声を出してもらい気分転換し、レクで塗り絵や散歩など職員が声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出勤した際には全員に話しかけコミュニケーションを図り、散歩やレクの提案を行い、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に髪のカット、手足の爪切りを行っています。服装も季節にあったものを提案している。またネイルボランティアの方をお呼びしたり、ご本人の気に入ったシャンプー等を買ってきたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段の食事は業者の季節に沿った献立が決まっている。行事の際にはご利用者の希望のあった食べ物を相談しメニューを決めている。片付けはご利用者に出来る所を一緒に行っている。	業者から調達した食材を湯煎で温め提供している。ペーストやムース食も事業所でミキサーにかけてはざらざら感が口の中に残るなどあることで、業者で作られた専用の形態をそれぞれに注文し食感など食べることへの配慮を行っている。調理レクも適宜行っている。	

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事形態においては、普通食、キザミ食、ペースト食、ムース食、エンシュアとそれぞれの利用者状態にあったものを提供している。水分量については時間を決めて1日の水分量が十分に摂取できるよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎日、毎食後ご自分で口腔ケア出来る方にはご本人で行って頂き、不十分な時は声掛け、介助を行っている。難しいご利用者には職員が行い清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>定時トイレ誘導や本人の希望時等、ひとり一人の排泄パターンを把握してトイレでの排泄を出来るだけ心掛けている。</p>	<p>タブレット端末で随時排泄間隔を把握し、誘導など支援している。意思疎通が行えず寝たきりの状態であるが排泄の失敗がない方に、二人介助にて1日1回はトイレに座ること、血圧の変動もあるので医師へ確認を行い全員で話し合い短時間での対応とし、その状態を継続する実践をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便表を作り、起床時水分補給をして頂いたり、運動への働きかけを行い、それでも難しい場合はここに合わせた下剤を調整し排便コントロールを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日(曜日)は決まっているが、入る際はご本人のタイミング合わせて入浴を行っている。浴槽内への入浴も個人のご希望に沿って入浴して頂いている。</p>	<p>週2回午後からの入浴を基本としている。時間については利用者の様子やタイミングをみながら柔軟に行っている。お風呂に浸かる最中は傍にはいるが、すりガラス一歩後ろにて構えプライバシーに配慮しゆっくりと入れるように努めている。冬場にはゆず湯など楽しめるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>休息や十分な睡眠がとれるように季節や状況に応じた衣類、寝具、室温調整を行っている。又、状況に応じて臥床時間を設けている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>医師、看護師、薬剤師、介護職員で利用者の体調管理を行っている。使用方法、用量、副作用については服薬指導を薬剤師より受けている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>女性利用者が多く、居間で片づけ物、洗濯物などお好きな仕事で活躍して頂いている。又、一緒に外出して買い物したり、散歩に出て季節を肌で感じてもらっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍であるため、面会制限や外出制限があり、思うような外出は出来ない。しかしご家族の集まりや結婚式がある際は柔軟な対応を行い楽しまれて外出されている。</p>	<p>コロナ禍であり、思うように外出行事は行えていないが、近隣での花見やピクニック、川土手に弁当を持参し外気浴をしながら食べたりと、その時の状況でできることを適宜検討し実践している。コロナ禍の情勢が落ち着けば、主立った外出行事を行いたい意欲を持っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>認知症の重度においてお金の管理は難しい場合も多いが「欲しいもの」を希望された場合は職員が代わりに購入支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話のやり取りを行ったり、ご家族へ宛てた手紙を職員が代わりに出したりと支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関で花を育てご利用者に水やりをして頂いている。季節に合った壁画作りを行い、室内に飾り季節感を取り入れている。	室内は採光と照明にて程よい明るさとなっており、その時期に合った作品作りを掲示し季節感が感じられるようにした落ち着いた空間となっている。温度調整や換気など感染症対策を行いながら適宜空調管理も行い、心地よく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間の中で気の合う入居者同士同じテーブルに座って頂き会話ができる環境を作るなど入居者が孤立しないように過ごしやすい居場所作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が以前から使っていた愛着ある小ダンスを持参されたり、ご家族からの写真や手紙等を飾り、季節に応じた模様替え、環境整備に努めている。	利用者の馴染みがある家具や調度品も自由に持参することができる。写真や手紙を飾ったり、本人、家族と話し生活同線を考慮した配置や季節に応じて適宜模様替えを行ったり、本人が住み心地の良い居室づくりとなるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗濯たたみ、洗濯干し、花の水やり、居室の掃除、テーブル拭き等「できること」「わかること」を活かして自立した生活を過ごせるよう工夫し取り組んでいる。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の理念を掲示し、申し送り前に毎日唱和している。日々職員同士で情報を共有し、理念に沿った支援を実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域で行事がある際は、出来るだけ参加するように心がけている。先日は、通りの花の植え替えをご利用様と一緒に参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターと事業所の空き部屋を利用して『いきいき体操』を1/w開催していたが、新型コロナウイルス蔓延のため中止している。沈静化後、再開予定。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、新型コロナウイルスのため会議は開いておらず、文書による議案・報告を行っている。近隣との交流は続いているため、その際にホームでの活動等について意見交換している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地区担当である翠町地域包括支援センターや南区健康長寿課介護保険係、南区生活課、広島市介護保険課とは連絡を密にとり協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内勉強会にて細部にわたり「身体拘束」について周知し「身体拘束ゼロを目指して」職員全員が真摯に取り組むことが出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内勉強会にて学ぶ機会を持ち、施設生活の中で虐待が見過ごされることがないように職員間で声掛けし防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度を活用されているご利用者もいらっしゃる、後見人と職員が関わりを持つことで制度について興味関心を持っている。利用に関するパンフレットも事業所に置き閲覧可能にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前には起こりうる事案や事前のお願いことを利用者や家族にあらかじめ伝え、家族からの疑問点や不安を入所前にお聞きし、説明、お答えし理解、納得された上で契約を締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在、新型コロナウイルスまん延のため面会制限があり、外部との接触が少なくなっている。しかし、利用者の様子を書いた手紙や便りを送り、電話でのやりとり等で家族の希望や要望を聞きとっている。		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎日の申し送りや月に1回のケア会議の際に運営に関する意見や提案を聞き、出席者全員で話し合い、反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>月1回の会議で意見交換し意思疎通を図ることでやりがいを持って働けるような職場環境作りに努めている。資格取得の際の研修費負担や労働日時の調整を行い、その後の給与水準の提示を行うことで向上心を持って働けるように支援している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>定期的に社内外の研修を受ける機会があり、職員一人ひとりの力量を把握し、チャレンジしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>同業者及び医療関係者とも密に連携し、情報交換を行い協力しサービスの質の向上に向けて実施できている。</p>		
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>病院や他のケアマネからの事前情報をもとに本人により安心してもらえるようなサービスを行えるよう職員同士で連携し、本人との関係づくりを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前に本人や家族から事前に困っていること、不安なことを聞き、本人の話を傾聴しながら家族には施設での様子をお伝えすることで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族からの要望を伺い、必要、希望とされている支援、サービスを見極め提案し対応に当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	認知症の患者ではなく、年長者として敬い暮らしを共にするものとして家事等では年長者のやり方を積極的に取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月家族に利用者の近況報告や電話連絡、不定期のお便りを送っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の以前から親交のあった方や親せきの方が来られたり、連絡をされたりと良い関係が維持できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	利用者様同士の性格や相性を把握してコミュニケーションを取れるよう席を近くにしたり、レクリエーションでは同じ作業を協力して行っている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	退所後も必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	利用者様の希望や意向の把握に努め、ご希望に沿えるよう職員間で話し合いを行い、沿うことが困難な場合も丁寧に説明させて近い形での対応を行えるよう努めている。		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	会話の中で一人ずつの発言の機会を作り、昔話をしながら質問を行い、無理のない程度にお話頂き情報を集め、理解を深めている。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	お一人おひとりの一日の行動を記録し共有している。変化のあった時には職員間で対応、話し合いその方にあったサービスを提供します。		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人様、ご家族様の気持ち、意向を尊重し必要な関係者と話し合い、本人の現状にあった介護計画の作成、モニタリングに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に日々の様子やケアの実践、結果気付いたことを記録している。職員間で共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	女性の利用者様が増えているため、外部よりネイルボランティアに来て頂き、普段はないことに大変喜ばれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会に入り、地域の花植えのボランティアに参加したり、とんど等の季節行事にも顔を出させて頂いて楽しませている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医と関係を気付き、月2回の往診、夜間時の急変にも対応して頂ける様に医療連携に取り組んでいる。他科への受診希望があれば、往診を依頼したり、紹介をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	あげぼのでは訪問看護をお願いしており、夜間、緊急連絡等24時間看護を受けられるよう支援している。特変時は、電話連絡で情報伝達し、Nsからの指示や、協力医からの指示伝達を受けられるよう支援して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず職員が付き添い、現状時要約をお渡ししている。また入院中の相談や退院時のカンファレンスへの参加も積極的に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	コロナ禍においてターミナルケア（終末期）はとてもデリケートな課題だが、職員全員が一貫したケアが出来るようカンファレンスでは情報共有に力を入れている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内ではそれぞれの初期対応のマニュアルがあり、共有し、シュミレーションを行い緊急時でも対応できるよう訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に訓練を行い確認している。地域との協力体制を確認している。		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格尊重を基本とし、細部にわたりきめ細やかなケアが出来るよう職員の質についても話し合う機会を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	毎日体操、発声練習で大きな声を出してもらい気分転換し、レクで塗り絵や散歩など職員が声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出勤した際には全員に話しかけコミュニケーションを図り、散歩やレクの提案を行い、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に髪のカット、手足の爪切りを行っています。服装も季節にあったものを提案している。またネイルボランティアの方をお呼びしたり、ご本人の気に入ったシャンプー等を買ってきたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段の食事は業者の季節に沿った献立が決まっている。行事の際にはご利用者の希望のあった食べ物を相談しメニューを決めている。片付けはご利用者に出来る所を一緒に行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事形態においては、普通食、キザミ食、ペースト食、ムース食、エンシュアとそれぞれの利用者状態にあったものを提供しています。水分量については時間を決めて1日の水分量が十分に摂取できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎日、毎食後ご自分で口腔ケア出来る方にはご本人で行って頂き、不十分な時は声掛け、介助を行っている。難しいご利用者には職員が行い清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時トイレ誘導や本人の希望時等、ひとり一人の排泄パターンを把握してトイレでの排泄を出来るだけ心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便表を作り、起床時水分補給をして頂いたり、運動への働きかけを行い、それでも難しい場合はここに合わせた下剤を調整し排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日(曜日)は決まっているが、入浴の際は本人のタイミング合わせて入浴を行っている。浴槽内への入浴も個人のご希望に沿って入浴して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>休息や十分な睡眠がとれるように季節や状況に応じた衣類、寝具、室温調整を行っている。又、状況に応じて臥床時間を設けている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>Dr、Ns、薬剤師、介護職員で利用者の体調管理を行っている。使用方法、用量、副作用については服薬指導を薬剤師より受けている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>女性利用者が多く、居間で片づけ物、洗濯物などお好きな仕事で活躍して頂いている。又、一緒に外出して買い物したり、散歩に出て季節を肌で感じてもらっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍であるため、面会制限や外出制限があり、思うような外出は出来ない。しかし家族の集まりや結婚式がある際は柔軟な対応を行い楽しませて外出されている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>認知症の重度においてお金の管理は難しい場合も多いが「欲しいもの」を希望された場合は職員が代わりに購入支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話のやり取りを行ったり、ご家族へ宛てた手紙を職員が代わりに出したりと支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関で花を育てご利用者様に水やりをして頂いている。季節に合った壁画作りを行い、室内に飾り季節感を取り入れている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有空間の中で気の合う入居者様同士同じテーブルに座って頂き会話ができる環境を作るなど入居者が孤立しないように過ごしやすい居場所作りに努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人様が以前から使っていた愛着ある小ダンスを持参されたり、ご家族からの写真や手紙等を飾り、季節に応じた模様替え、環境整備に努めている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>選択たみ、洗濯干し、花の水やり、居室の掃除、テーブル拭き等「できること」「わかること」を活かして自立した生活を過ごせるよう工夫し取り組んでいる。</p>		

V アウトカム項目(3階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあけぼの

作成日 令和4年12月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員が業務的な対応を行っていることが多いため、寄り添ったケアが行えていない。	個別ケアを重点的にケアを行いより施設での生活に豊かさを持って頂く。	ご利用者に役割を持って頂く。利用者の話を傾聴し、安心感を持って頂くために職員と一緒に日記を残す。	3か月
2	3	薬のヒヤリハットの数が多い。	ヒヤリハットを無くす。	1人1人が確認し、見直しを行う。	3か月
3	2	近隣との関係が希薄。	近隣住民への認知度を上げる。	挨拶を行う、周辺の掃除を行う。	3か月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。